株主の皆様へ

2013年度 上期のご報告

(2013年4月1日~2013年9月30日)

株式会社フジクラ

ごあいさつ

株主の皆様には、日頃よりご支援を賜り厚くお礼申しあげます。

ここに2013年度上期の当社グループの業績の概要をお知らせ申しあげます。

当社グループの上期の業績は、FPC（フレキシブルプリント配線板）の受注が一昨年のタイ王国洪水による落ち込みから回復してきていることと、自動車電装事業で新車種用製品が順調に立ち上がったことに加え、円安や国内事業構造改革の効果により、売上高は2,825億円（前年同期比17.9%増）、営業利益は86億円（同96.9%増）、当期純利益は34億円（前年同期は当期純損失40億円）の増収増益となりました。

中間配当は、前年中間期から0.5円増配の1株当たり3円としました。また、上期中に469万株、総額14億円の自己株式を取得し、10月には1,000万株及び50億円を上限として自己株式取得を決議しました。

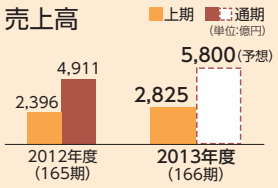
下期の業績はほぼ上期並みを見込んでおり、2013年度通期では売上高5,800億円、営業利益170億円、当期純利益75億円の計画としています。

株主の皆様には、引き続きご支援いただきますようお願い申しあげます。

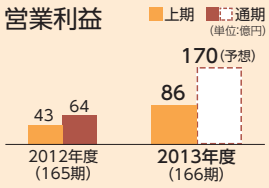
2013年12月　取締役社長 長浜洋一

業績ハイライト

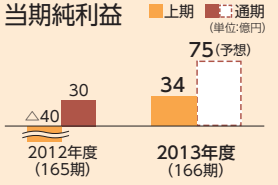
売上高



営業利益



当期純利益



中間配当

2013年度
(1株当たり)
3.0円

ホームページのご案内

最新のIR情報につきましては、当社のホームページ「投資家情報」をご参照ください。

トップページ

投資家情報ページ

アドレスはこちら

http://www.fujikura.co.jp

株式事務のご案内

株主名簿管理人　東京都千代田区丸の内一丁目４番１号
三井住友信託銀行株式会社

連絡先　〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
0120-782-031(フリーダイヤル)

Fujikura

〒135-8512
東京都江東区木場1-5-1
株式会社フジクラ

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC C013080
VEGETABLE OIL INK

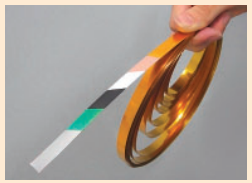
●クローズアップ

イットリウム系高温超電導線材のビジネスを拡大

当社は、株式会社東芝殿より約20kmのイットリウム系高温超電導線材を受注しました。本製品は、国立大学法人東北大学殿が開発を進める世界最先端の強磁場超電導磁石システム「25T（テスラ）無冷媒超電（伝）導磁石システム」用の超電導コイルに使用されます。当社が長年開発を進めてきた長尺化製造技術によって、線材全長にわたる均一で安定した超電導状態の維持を可能としました。

これまで、医療分野で多く使われている最先端の医療用画像診断装置であるMRIなどには、冷却に液体ヘリウム（沸点 摂氏マイナス269度）を必要とする金属系低温超電導線材を用いた超電導コイルが使われてきました。しかし、世界の限られた地域でしか産出されない希少な天然資源であるヘリウムの価格高騰や調達面での課題などから、ヘリウムを使わない高温超電導線材の実用化が待たれていました。今回の当社線材の採用は、実用の超電導コイル向けとして世界初となります。

当社は、今回の強磁場超電導磁石システム用コイルでの採用に加え、今年度よりスタートする国家プロジェクト「高温超電導コイル基盤技術開発」などによる需要の拡大に応えるために、量産体制をさらに加速させ、高温超電導線材ビジネスの拡大を図ります。



イットリウム系高温超電導線材

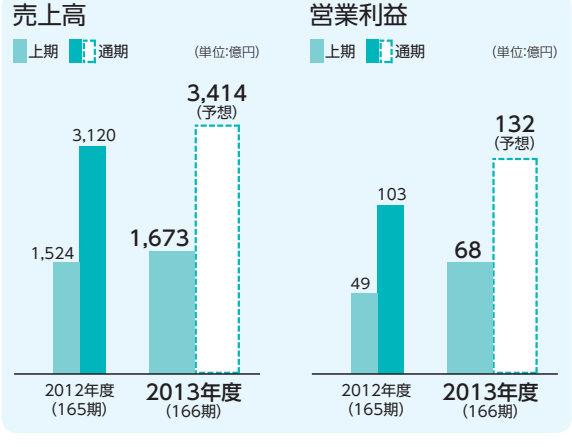
エネルギー・情報通信カンパニー

このカンパニー全体の売上高は、前年同期比9.7%増の1,673億円、営業利益は同34.8%増の68億円となりました。前年上期に比べ大幅な円安となったことが業績改善を後押ししました。

国内は産業電線や光ケーブルが市況低迷の影響を受けましたが、海外は新興国向けで光ファイバや光融着接続機が需要増となり、データセンタ向けで光部品が好調でした。

現在、電力・通信のインフラ向け事業は、需要が低迷している国内では構造改革により、事業体制の最適化を進めています。一方、海外での収益基盤拡大へ向けて、国内のリソースをシフトして海外展開の強化を進め、インドネシア及びブラジルで合弁会社の立ち上げに取り組んでいます。中国では旺盛な需要が見込まれることから、光ファイバ母材の生産能力をさらに増強して、いっそうの需要の取り込みを進めていきます。

2013年度通期のこのカンパニーの売上高は3,414億円、営業利益は132億円を計画しています。



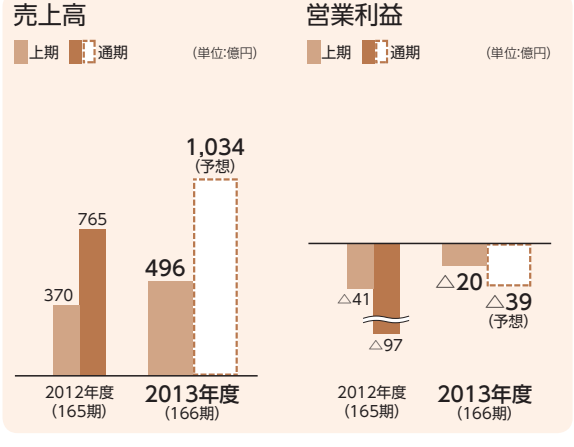
エレクトロニクスカンパニー

このカンパニー全体の売上高は、前年同期比33.9%増の496億円、営業損失は20億円（前年同期は営業損失41億円）となりました。

FPCは、一昨年10月に発生したタイ王国の洪水により、製造能力のほとんどを失いましたが、前年上期に洪水前の70%まで、今年度初めには90%まで製造能力を回復しています。携帯端末向けやデジタル一眼カメラ向けを中心に、順次主要なお客様との取引を再開してきた結果、当上期は前年同期に比べて大幅な増収となりました。コネクタは、携帯端末向けや産業機械向け、通信インフラ向けの需要が堅調でしたが、価格下落により売上高は前年同期並みとなりました。

今後、FPC及びコネクタを柱に、受注の拡大と生産性の向上に注力して電子事業の再生を軌道に乗せていきます。

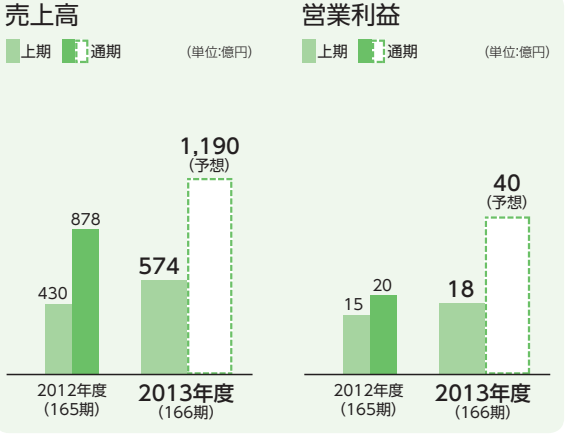
2013年度通期のこのカンパニーの売上高は1,034億円、営業損失は39億円を計画しています。



自動車電装カンパニー

このカンパニー全体の売上高は、前年同期比33.5%増の574億円、営業利益は同25.5%増の18億円となりました。

アジア、アメリカ、欧州の世界3極体制を構築し、地域ごとの統括拠点がその地域での顧客対応、生産体制の整備などの運営管理を行い、グローバルに展開する顧客の要請にスピーディに対応できる体制を整えました。当上期につきましては、アジアでは、中国で日系及び欧州系顧客向け新車種用ワイヤハーネスの量産を開始しました。アメリカでは日系顧客向けを中心に需要が伸び、欧州においても新車種向けの量産を開始するなど、総じて好調となりました。

下期にかけては、複数の拠点で新車種用ワイヤハーネスの量産開始を予定しています。引き続き、世界３極体制の強化と開発力の強化を進め、新興国での製造拠点の立ち上げや増産を着実に実行して収益拡大を図ります。

2013年度通期のこのカンパニーの売上高は1,190億円、営業利益は40億円を計画しています。